

※この研修は保育士等キャリアアップ研修ではありません

令和6年度

食物アレルギー対応マニュアル研修

開催要項

- ◆目的 園における食物アレルギー児への対応については、医師と連携をして正しい知識で臨まなければなりません。本研修では横浜市が作成した食物アレルギー対応マニュアルに基づき、誤食事故防止や事故発生時の対応についての知識を深めることを目的とします。
- ◆日時 第1回 令和6年 7月24日(水) 13時30分～16時30分
(申込み開始日 令和6年 6月18日(火) 13時～)
第2回 令和6年12月16日(月) 13時30分～16時30分
(申込み開始日 令和6年10月10日(木) 13時～)
※各回同一内容です
- ◆会場 横浜市技能文化会館 2階ホール (住所) 横浜市中区万代町2-4-7
- ◆対象者 横浜市内の保育・教育施設に勤務する職員
- ◆人数 第1回 150名 / 第2回 150名 計300名
※1園・施設から複数のお申込みができます。
お申込みは1名ずつお願いします。
- ◆講師 横浜市立みなと赤十字病院 アレルギー小児科 副部長 小張 真吾 氏

◆施設型給付費等に係る 研修要件への適否

	処遇改善等加算Ⅱ	職員処遇改善費
保育所・地域型保育事業	×	○
認定こども園・幼稚園	○	○

◆昨年度の受講者の声

アレルギーについて、ある程度知識はあるつもりだったが、少し勘違いしていることもあり驚いた。特に今の食物アレルギーは、園などでは完全除去が基本だが、治療の基本は必要最低限の除去で、食べ続けることで良くなる確率が上がるとは知らなかった。また原因食物も木の実類が増えていて、それに伴いエピペンの処方率も高くなっていることもわかった。

食物アレルギーの一番一般的な皮膚反応は保育者から見ても分かりやすく、アレルギー反応だと判断しやすいが、その他の消化器や呼吸器、全身に出る反応は、食物アレルギーのものを摂取したと明確に分からない場合には、保育者が判断するには容易ではないと感じましたが、アレルギー反応の傾向の知識を今回学んだことで、第一にアレルギー反応ではないかと判断する基準ができたと思います。

また、アナフィラキシーが出た際にエピペン®はとても有効的なものであるが、エピペンを利用すると同時にその際には救急車の要請も同時にするということも今回初めて知り、エピペンを預かっている子どものアレルギーに対しては、より一層注意喚起が必要だと痛感しました。

◆申込方法 横浜市こども青少年局の「[横浜市保育・教育施設職員等研修事業](#)」サイトからお申込みください。

研修はお申し込みの受講者のみ受講できます。受講者を変更する場合は「保育・教育支援課 人材育成係」までご連絡ください。

※定員に達し次第、申込みを締め切らせていただきます。

横浜市ウェブサイトで検索

保育・教育の質向上

検索



【会場研修について】

- ・会場研修の当日は、ご自身の体調を確認の上、ご参加ください。

★ご確認ください★

【確認事項】

- ・修了証は、受講が確認でき、受講後にまとめて提出された方に後日交付します。まとめは、横浜市電子申請・届出システムにてご提出いただきます。
- ・「研修申込み」「研修資料等のダウンロード」「受講後のまとめ提出・レポート提出」「修了証のダウンロード」など、期限を設けて対応しています。各期限を過ぎてからは、理由の如何を問わず対応できませんのでご注意ください。また、修了証の再発行はできませんので大切に保管してください。
- ・受講のキャンセル・欠席・遅刻等の場合は、必ず「保育・教育支援課 人材育成係」まで電話連絡をしてください。



よこはま☆保育・教育宣言

PRキャラクター 宣言星人 ひかりん

◆会場地図



横浜市技能文化会館

- 横浜市営地下鉄「伊勢佐木長者町駅」
2番出口から徒歩3分
- JR「関内駅」から徒歩5分

こども青少年局 保育・教育支援課
人材育成係
TEL 045-671-2397